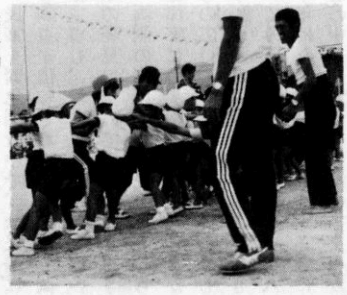
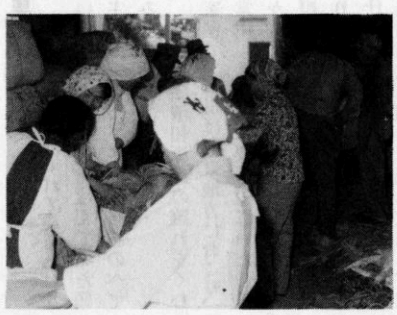
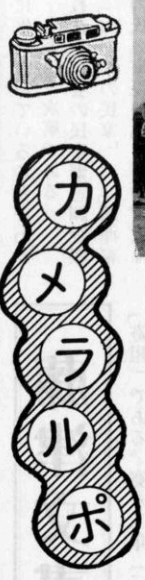


九月二十八日県消防学校で第二十四回山口県消防ポンプ操法大会が開かれました。郡代表として本村消防団の第一分団が出場し、日頃訓練の成果を十二分に発揮して自動車ポンプ基本操法の部で第三位に入賞しました。



本格的なスポーツのシーズンを迎え、保育園や学校などで楽しい運動会がくりひろげられました。この日ばかりは、すこやかに成長した子どもに目を細め、さかんに声援をおくり、また親子一体となって競技に参加し、楽しい一日をすごしました。



十月十五日から二十日までの六日間、日置たばこ収納所に北浦地方一帯でとれた葉たばこが集められ、選別されました。葉たばこの芳香が収納所一杯にひろがり、栽培の芳苦に報いているようでした。

待望の電話のダイヤル化が、十月十九日午後二時から実施されました。当日午後二時三十分改善センターで自動局開局記念式が行われ、県出納長宛(知事・副知事不在)に記念通話が行われました。



# ふる里

## 村内の地名 (一)

郷土の歴史の上にある事象を探るとき、それに関係した字名が、解明の手がかりとなることを前回述べたのであるが、いま一つその事例をあげよう。明治六年三月に日置小学校は、「先大津二番小学校」の名称で開校した。明治初年の学校はどこに所在していたのであろうか。同校の沿革史には、創立以来古市町民家ヲ借りテ教授セシガ明治十五年一月仮校舎類焼ス依テ善福寺北隣ノ民家ヲ借りテ授業ス

いる。近くの魚屋の角に古墓(無縁墓)が寄せ集めてあるが、これは昭和の初め駅通りができた際整理されたもので、これも寺址と関連がありそうである。この説にうなづいてくださったのが吉村潤一氏(上市・薬店主)である。「西嶋の先々代が、あの土地を屋敷に購入する登記手続きのとき寺地で幾筆にも分かれていて面倒でした。」と語られたことがある。「西嶋さんの裏の方に、今も祠があるはずですよ。」と話を続けられる。泉福寺と東門の地名は関係がありそうである。

さて、村内には現在使用されている字が五五〇に上る。藩政時代の穂ノ木となると莫大のものであつたであろう。昔の人がどのような呼び慣らわして、遂には一般に認められる地名となつたのか、勝手な想像をめぐらしてみても、ほほえましい。地名研究について故宮崎典也氏(郷土史研究家・前向津具八幡宮々司)の講演資料の一部を紹介して、その意義をまとめてみる。

◇地名研究の意義

○地名は人間の文化的遺産である。現在も使用し生きている。

○数多くの地名は、時々の有名な知識人によってつけられたものでなく、常民が口にし自づから固定承認されたものである。

○地名はでたら目につけられたものでなく意味をもつ。

○地名は一度にできたものでなく開墾や交通、社会経済、信仰、その他さまざまな人間のかかわりによって、複雑になるに従って増加する。そこに新旧があるのは当然。

○地名研究の意味は、郷土の祖先が苦心さんたんして生活した跡を尋ねてみようとするところにある。日本にはきわめて小さいところまで地名があるが、それは適切である。愚知盲昧とされた農民の英知にもふれることができる。その感銘を次代に伝えるべきよき教材である。

○地名などどうでもよいと思う人はそれでよいが、郷土の歴史を明らかにするには地名研究は是非必要になつてくる。

## 幼児のむし歯予防 講演会の開催

本村では二歳児から三歳にかけて、むし歯の数は〇・一本から五本にふえています。子どもむし歯は、お母さんの責任です。そこで、むし歯をつくらないうめどう気をつけたらよいかについて、県の歯科医師会より先生をおまねきして、次のとおり講演を開催します。幼児をおもちのお母さん、さそいあつてお気軽においで下さい。

日時 十一月二十二日(火) 十三時三十分より

場所 改善センター  
内容 泉歯科医師会  
乾幸子先生の講演  
本村の歯科医師との質問会